

芦屋市立宮川幼稚園（兵庫県）

身近な環境で様々な自然に出会い、自らの視点でそのものの不思議さや美しさに心動かす経験は、子どもの「気づく力」「不思議だと思う心」を育てます。可視化の工夫としてICTを活用することにより、子どもたちがより丁寧に自然を捉え、深い探求を可能にしていきます。実体験とデジタル機器の活用が、新たな気づきを生み、「科学する心」を育みます。

「アジサイ探検から地域へ」（5歳児／6月）

6月8日（水）、5歳児が、近隣へ出かけた帰り、穂のようにこんもりと丸い形のアジサイが咲いているのを見つけた。「なんかこのアジサイ、幼稚園ののちちょっと違う」「ほんと、ちっちゃい花びらがいっぱいある」「いろんな種類があるんだね」とみんなで見合ったことから、アジサイについてクラスで話し合いを重ねてきた。



いざ、アジサイ探検へ！ 6月21日（火）午前

園周辺の公園や地域の方のご自宅、施設等、あちらこちらにアジサイが咲いていることが分かってきた。そこで、各グループにタブレットを1台ずつ持ち、それぞれ出掛けた場所で一人ひとりが“自分のお気に入りのアジサイ”の写真を撮影してこようとなった。

探検に行くにあたり、事前にタブレットで写真を撮ることも含めて了解を得る必要があると考え、野菜の先生には玉ねぎ収穫で園に来ていただいた時に「今度うちのアジサイ見に行ってもいいですか？」と約束させていただいた。ご近所にお住まいの方や近隣の方も「いつでもどうぞ。アジサイを見てもらえたら嬉しいです」と言っていた。

探検ではお気に入りのアジサイがすぐ決まる子どもや本当にあふれるようにたくさん咲くアジサイの中から選びきれず迷う子どももいた。自分でアジサイを決めて写真に撮った後も近くにあるアジサイをしげしげと見る様子から、アジサイを視点に見える世界が開かれていくことを感じた。

見つけたことを伝え合う 6月21日（火）午後

タブレット写真はアジサイの花についた雨粒ひとつひとつまで鮮明に映っており、子どもたちは自分のアジサイを改めて眺め「きれいだな」とつぶやいたり、拡大して見たりしていた。その後クラスのみんでテレビの大画面で共有するとタブレットだけではわからなかったことが見えてきた。

〇児：「お花の中に小さいのがあるのを見つけた」

子どもたち：「大きくして見てみたらいいよ」「アジサイの赤ちゃんだ」「それは大きくなるよ。ずっとそのままだと思う」「育ててたらわかるかも」「毎日は見に行けないから大きくなるかどうかはわからないな」



アジサイの仲間集めをしよう 7月11日（月）

「わたしの一緒だ」というつぶやきが多く聞こえてきた。そこでタブレットで撮影した写真を印刷して、一人ひとりの「アジサイピクチャーカード」を作成し、それを元に子どもがアジサイの仲間集めをすることにした。仲間探しの結果、次のような仲間に分けられた。

①小さい白い花がたくさん集まっている仲間、②色がピンク仲間、③虹みたいにカラフル仲間、④なかに小さな花がある仲間、⑤ピンクの小さいのがある仲間、⑥中の小さい花がいっしょ仲間、⑦大きいアジサイの仲間

①小さい白い花がたくさん集まっている仲間

C児：ちょっと見せて。一緒と違うかな？

（自分の写真を見せながら近づいていく）

M児：いいよ

C児：探検行った時も似てるなって思ってたんだ！色がいっしょだね。

②色がピンク仲間

E児：濃い色も薄い色もあるけど、みんなピンクの仲間になったね

F児：こんなにいっぱいピンクの仲間がいたね

Y児：わたしのピンクもかわいいけどQちゃんのピンクもかわいいね

Q児：嬉しそうに微笑んでいる

⑦大きいアジサイの仲間

B児：大きくってボールみたい 雪だるまみたい

P児：まん丸だね

X児：ぼくのも2個並んでるよ

Z児：ぼくのも。でも違うアジサイを撮ったのにね

先生に聞いてみました

「アジサイ探検」は散歩の帰り道で偶然見つけた一本のアジサイから始まりました。”そういえばご近所がよく見かける“という気付きから、子どもの発見や疑問から展開していった活動でした。地域の方が育てておられる見事なアジサイや珍しい種類のアジサイを発見すると子ども達だけでなく、先生たちもワクワクした気持ちになり、最後は保護者にも「アジサイ眼」が広がっていき

ました。
論文にまとめる際には子ども達の話し合いの記録から、つぶやきをもう一度書き起こす作業を行いました。そのことで子どもなりの着目点や子どもが新たな発見を生む

「科学する心」を読み解くことにつながったのではないかと思います。

今回ICTを活用したことで、写真データからも子ども一人ひとりの思いや発見を共有することができ、ICTの可能性を感じた実践でもありました。

今回の「科学する心」を読み取る経験から、子どもの遊びの中に「科学する心」の芽が育とうとしている瞬間を感じ取り、子どもが自ら試す機会をより大事にする意識をもつことができました。これからも子ども達とともにワクワクしながら、「科学する心」が育つ環境や援助を考えていきたいと思っています。

↓ 論文全文はこちら



『子どもが環境にかかわる力をはぐくむ』
～可視化し、共有することで
芽生える科学する心～

